

歴史 | 探訪

～文化財を巡る～⑥

豊岡の文化財を紹介します。皆さんの身近にある文化財を見ていきましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

「美術工芸品(彫刻)」(その1)

市内では、美術工芸品と呼ばれるもののうち、彫刻、特に仏像が数多く指定されています。その数は40件、1,071躯にのぼります。1,000を超えるのは、千体仏が指定されているからですが、目に触れることの多い仏像は、古くから貴重な文化財とされてきました。

今回から、特徴ある仏像について代表的なものを見ていきましょう。1回目は、たくさんの手で皆の苦しみを救うといわれている千手観音。1千本の手があるのではなく、1本の手で25の世界の人々を救うとされている40手に、合掌する2手を加えた42手の千手観音が多く見受けられます。

木造千手観音立像

(国指定)城崎町湯島・温泉寺

ヒノキの一木造で、像高145cm。温雅で穏やかな作風で、やや伏目の両眼、丸みを帯びた顔



の輪郭などの特徴から、平安後期の作とされています。左右の脇手にはそれぞれ持物を持ち、脇手の間にも小さな脇手をぎっしりと配し、円形に広がっています。体軀は重量感がありますが、衣文の彫が浅いため、威圧するような迫力はみられません。

木造十一面千手観音立像

(県指定)三宅・慈等寺

ヒノキの寄木造で、像高192cm。頭部の化仏、



千手、天衣などは補修されていますが体軀は当初のままで、張った肩や厚い胸部に仕上げられているなどの特徴から、温泉寺の像よりやや後の鎌倉初期の作とされています。この千手観音は、慈等寺の前身、葉琳寺(三宅廃寺)の仏像だったともいわれています。

木造千手観音立像 附 像内納入品

(県指定)出石町宮内・総持寺

ヒノキの寄木造で、像高168cm。胎内に小さな聖観音像と文書が納められており、その文書から天文4年(1535年)、出石藩主山名祐豊



を始め、家臣や村人たち多数の寄進によって造立されたことが分かります。玉眼を入れた面部がやや扁平で、衣文の褶の形状なども室町末期の特徴をよく示しています。

語句の解説

- ・一木造…頭部と体部を一本の木から造り出す手法。像の割れを防ぐため、背側から内部をくりぬく。これを内削りという。
- ・寄木造…頭部と体部を割り離し、内削りを完全にしたあと合体させる手法。寄木造によって複雑な造形や、作成に要する時間の短縮などが可能になった。
- ・化仏…頭部に置かれる小形の仏像。それぞれ面相が異なっている。
- ・天衣・衣文…仏像がまとっている衣のこと。衣文はその彫刻をいう。
- ・玉眼…眼の部分をくりぬいて水晶やガラスをはめる手法で、鎌倉時代から始まった。

寺院によっては、拝観できない場合もあります。

【お詫びと訂正】

歴史探訪～文化財を巡る～⑤で紹介した「松岡の御柱祭」の雪姫は、「幸姫」、4月第2日曜日は、「4月14日」の誤りでした。お詫びし訂正します。

【表紙写真】12月12日、奥神鍋人工雪スキー場がオープンしました。ここ数年は、暖冬の影響で自然雪で覆われることが少なくなった神鍋高原ですが、人工雪のスキー場が開設されると、県内外からスキーやスノーボードを積んだ車が続々と集まってきます。オープン当日は、あいにくの空模様でしたが、来場者は、次々とリフトに乗り込み、幾度となく滑りを楽しんでいました。

●発行／豊岡市
☎07961231111
FAX2411004
●編集／政策調整部秘書広報課
FAX2412575

〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL <http://www.city.toyooka.lg.jp>

(総合支所)
・竹野 ☎4711111
・出石 ☎5231111
・但東 ☎54423210001
・城崎 ☎10001
・日高 ☎11011
・白旗 ☎10001